

クロストーク

『風と共に去りぬ』の新しい魅力

講師：荒このみさん（アメリカ文学研究者・翻訳家）

& 川本三郎さん（評論家・翻訳家）



日時：2017年3月4日（土）午後2時～4時（開場1時半）

会場：武蔵野スイングホール・レインボーサロンB 南棟11階

JR中央線 / 西武多摩川線「武蔵境駅」北口 徒歩1分

資料代：1,000円

受付：先着100名（全席自由席）

分かりやすい正確な新訳で知る古典の醍醐味！

『ハリーポッター』と並ぶ20世紀最大の世界的ベストセラー小説『風と共に去りぬ』は今も世界中で広く読まれつづけ、映画もアカデミー賞を9部門で受賞し興行収入の最高記録を保ち続けるなど、不朽の名作として知られています。華麗な映画のイメージから、この作品はこれまで熱いラブロマンスとして受け止められてきました。しかしアメリカの歴史や社会を丁寧に重層的、多面的に描きこんだマーガレット・ミッチェルの原作は、アメリカ社会の自画像とでも表現すべき、壮大でダイナミックな大河小説として描かれたものでした。文学史に屹立する渾身の力作を書ききったミッチェルは、この一作だけを遺し、いかなる続編執筆や改変の要請にも応じませんでした。

原書出版から80年近くを経て、新訳が新潮文庫版と岩波文庫版で相次いで出版されました。この機会に、

『風と共に去りぬ』の魅力について、岩波文庫版の翻訳者である荒このみさんと、文芸評論・映画評論の第一人者である川本三郎さんのお二人に縦横に語っていただきます。

アメリカをよく知るお二人のホットなトークを通して、ラブロマンスとしての魅力と同時に、それにとどまらない『風と共に去りぬ』の新しい魅力を発見してみませんか。移民問題や構造的な人種差別、宗教的偏見、女性の自立、戦争と暴力、社会的な南北格差等々、複雑に絡み合いながら21世紀の今日に至るまでアメリカ社会が解決しえないまま内包してきた様々な課題が、鮮明に浮かび上がってくることでしょう。とくに、62万人もの死者を出した南北戦争の悲惨や銃後の女性たちの苦しみを描き出した作家の反戦思想、また人間としての女性の権利への強い思い入れは、時代の要請を先取的に示すものとして示唆的です。

■本をたのしもう会事務局

〒180-0001 武蔵野市吉祥寺北町1-8-2 問合せ ☎ 090-2662-5218

講師の Profile

●荒このみ さん

1946年生まれ。お茶の水女子大学卒業後、東京大学大学院博士課程修了。東京外国語大学名誉教授。

専攻はアメリカ文学・アメリカ文化研究。

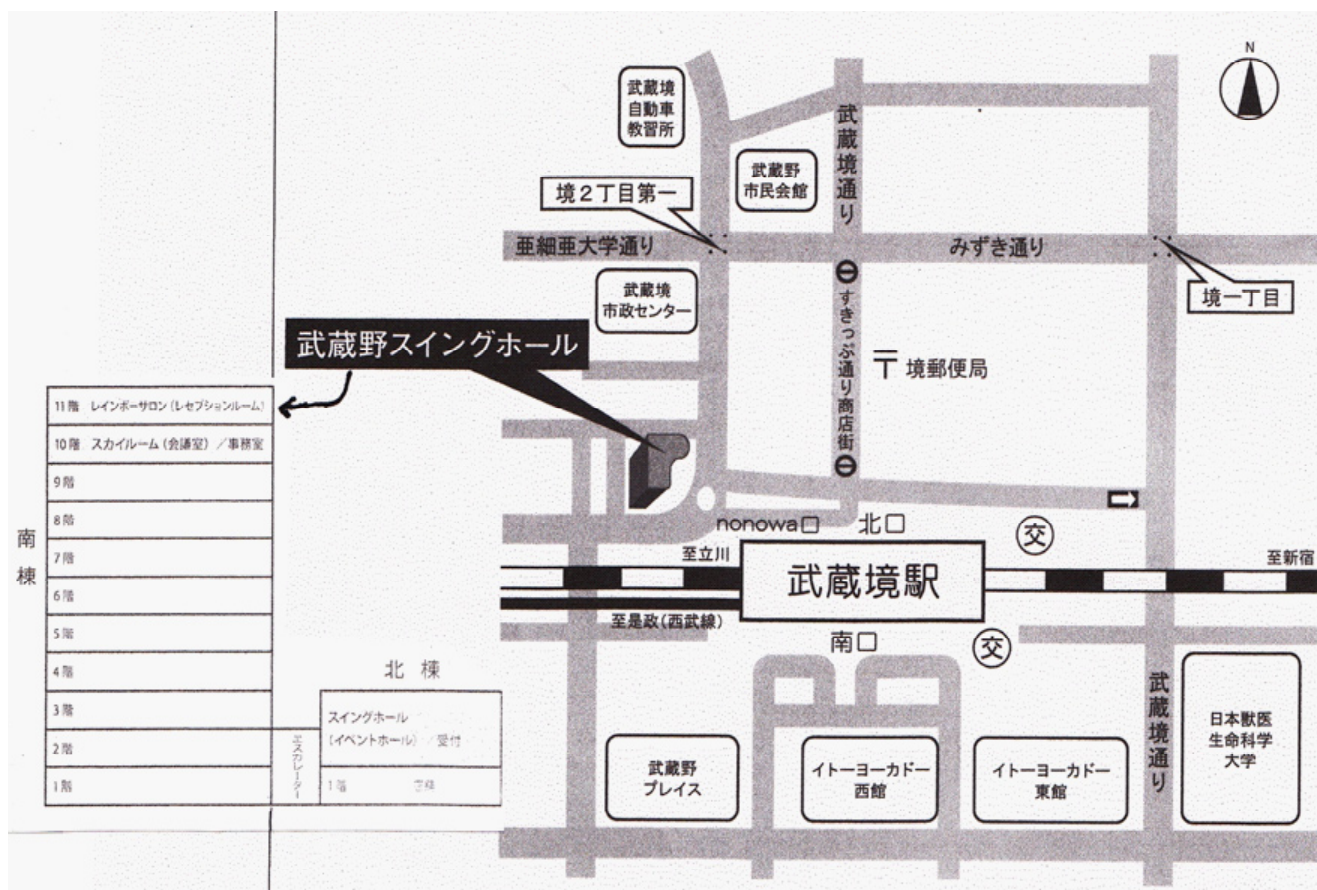
主著に『マルコムX——人権への問い』、『歌姫あるいは闘士ジョセフィン・ベイカー』、『アフリカン・アメリカン文学論——「ニグロのイデオロム」と想像力』、『黒人のアメリカ——誕生の物語』など。訳書に、マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』(全6巻、岩波文庫)など。編訳書に『アメリカの黒人演説集——キング・マルコムX・モリスン他』など。

●川本三郎 さん

1944年生まれ。東京大学法学部卒業。文芸評論家、エッセイスト、翻訳家。文学、映画、東京、旅を中心とした評論やエッセイなど幅広い執筆活動で知られる。長く毎日新聞の書評委員を務め、読書人の信頼を集める。

著書に『大正幻影』(サントリー学芸賞)、『荷風と東京』(読売文学賞)、『林芙美子の昭和』(毎日出版文化賞・桑原武夫学芸賞)、『白秋望景』(伊藤整文学賞)、『マイ・バック・ページ』『いまも、君を想う』『今ひとたびの戦後日本映画』など多数。訳書にトルーマン・カポーティ『夜の樹』『叶えられた祈り』ほか。

▼武蔵野スイングホール案内



出版NPO「本をたのしもう会」は、広く読書推進活動を行うための非営利グループです。マスコミや教職関係のOB・現役、地域のコミュニティ活動や文化活動に関心のある市民など、主に武蔵野市を中心とする多摩地区在住の志を共にするさまざまなメンバーが集まって活動しています。読書の面白さや魅力を知ることによって自ら考える能力を培うだけでなく、同時代を生きる人々と交流を深め、経験を共有することで、豊かな市民文化を形成することをめざしています。